

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 19 日現在

機関番号：16301

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2012～2014

課題番号：24520805

研究課題名(和文) 元代の両淮・両浙における漕運と塩の流通 ―商人集団・官僚の動向を手がかりとして―

研究課題名(英文) Water transportation and salt circulation in Huazhe provinces during the Yuan period

研究代表者

矢澤 知行 (YAZAWA, tomoyuki)

愛媛大学・教育学部・教授

研究者番号：60304664

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、元代の中後期の両淮・両浙地域において漕運や塩の流通に関与した商人集団や官僚の動向を追うことにより、当時の社会経済の具体像の一端を解明することができた。元代の主要人物約11,000名に関する諸データを入力して「元人総合DB」を試作し、これに基づいて、両淮・両浙地域において塩政に携わっていた54名からなる官僚群を抽出し、彼らの動向に焦点を当て、その動態を分析した。その結果、同地における塩政の展開に、1290~1300年代、1330~40年代という二つの緩やかな画期が見られ、この時期の江南地域において農商諸勢力の伸張が看取される点などを明らかにした。

研究成果の概要(英文)：I researched on the movement of bureaucrats, salt merchants and social elitists who have been participated in water transportation and salt administration in Huazhe provinces during the Yuan period. I made a database that contains about 11,000 major persons of the Yuan Dynasty. On the basis of this database, I excerpted 54 bureaucrats who have been participated in salt administration in Huazhe provinces. I analyzed their movement, and found two epochs of salt government's development in Huazhe, that is 1290-1300's and 1330-40's. And I perceived the extension of agricultural and commercial elitists in Jiangnan area in the timing of epoch .

研究分野：元代史・モンゴル時代史

キーワード：元朝 漕運 塩政 官僚

1. 研究開始当初の背景

(1) 元代の社会経済史研究は、先学諸氏によって戸口、税役、通貨、駅伝、商業、貿易など諸領域の成果が積み上げられてきた。しかし、宋代から元代を経て明清時代にいたる時代縦断的な把握が試みられるなかで、宋代と明清代に関わる研究が着実に進展してきたのに対し、元代の社会経済史研究が遅れをとってきた感は否めず、モンゴル支配の下で中国の経済発展は阻害されたのか否か、といった問題についても明確な結論は出ていない。

(2) 本研究で研究の対象とする元代の漕運や塩については、従来の研究において制度面の解明が重視される一方で、漕運や塩業を担った人々の動向など具体的な側面にはほとんど関心が寄せられてこなかった。例えば、元代の両淮・両浙地域における塩政の展開についても、従来の研究では、元代における塩政の展開を、塩法の弊害に対応して次々と施策が講じられたものと理解される傾向にあった。

2. 研究の目的

(1) 本研究では、主要な典籍資料だけでなく、地方志や文集、碑刻史料などに記されている断片的な記載も積極的に用いながら、元代の中～後期、両淮・両浙地域において漕運や塩の流通に関与した商人集団や官僚の動向を追うことにより、当時の社会経済の具体像を明らかにすることをめざした。

(2) そのために、本研究では、両淮・両浙地域への経済的支配の主体者であった元朝政府のみならず、同地域の経営に参入していた大カアンの帝室、モンゴル貴族、ムスリム商人、オルトクらのほか、関係官署に属して塩政に関与していた漢人官僚、地域社会において権益の確保に動いていた在地の土人や塩商、豪民たちなど、様々な立場の存在に着目した。こうした多様な存在を分析の対象とすることにより、従来の研究とは異なる視角から塩政の展開を捉えることをめざした。

(3) そして長期的な研究目標としては、モンゴル政権による江南経済的支配の特質、宋代や明清代との連続性あるいは質的相違などを明らかにすることを掲げて研究に臨んだ。

3. 研究の方法

(1) まず、元代における漕運の展開過程に関する基礎史料と先行研究の再検討から着手し、並行して国内外の多様な史資料の収集を行い、逐次その整理と解説を進めた。

(2) そして、元代の中後期、漕運と塩の流通事業に関与していた官僚を中心とする多様な存在に関して、生没年代、出身地、履歴、典拠史料などの情報を入力してリレーショナル・データベース(以下、「元人総合DB」)を試作した。

(3) 上述の史資料や「元人総合DB」を手がかりに、両淮・両浙地域において漕運や塩の流通に関与した官僚らの動向を具体的に明ら

かにすることを試みた。とりわけ両淮・両浙の運輸財務行政を掌っていた転運塩使司については、官署の沿革や、そこで塩政に関与した塩官たちの具体像や、塩商・豪民などの関係などを解明することをめざした。

4. 研究成果

(1) 本研究では、元代の中後期の両淮・両浙地域において漕運や塩の流通に関与した官僚や塩商・豪民などの動向を追うことにより、当時の社会経済の具体像の一端を解明することができた。

(2) まず、元代における漕運の展開過程に関する基礎史料や先行研究を再検討しつつ、両浙都転運塩使司の沿革やこの官署をとりまく政治経済状況の展開を整理して提示した。これと並行して、王徳毅編『元人伝記資料索引』などを参照しながら、元代の主要人物約11,000名に関する諸データを入力して「元人総合DB」を試作した。同時に、国内外の多様な史資料の収集を行い、逐次その整理と解説を進めつつ、元人総合DBを活用しながら、両淮・両浙地域において塩政に携わったことが史料上確認できる官僚を可能な限り抽出した。そして、54名からなる彼ら官僚群の動向に焦点を当て、彼らの動態を分析することによって、次の諸点を見いだすことができた。

(3) まず、官僚の出身についていえば、いわゆる南人の官僚の占める割合がけっして低くなかったこと、また、必ずしも蒙漢二元体制が取られたわけではないことが両浙の特徴として明らかとなった。次に、官僚の異動歴に着目して分析した結果、両浙で塩政に携わっていた官僚の多くが、塩政や漕運・賦税など財務行政のスペシャリストとして、江浙行省管内の関連する官職を「まわり持ち」のような形で担当する傾向があったことを推測した。それゆえ官僚どうしが職務などを通じて濃密な人間関係を構築することもあり、その具体的な実例をいくつか挙げることもできた。そして、鮮于樞、黄潛、蘇天爵といった文人士大夫が、そうした人間関係における基軸の役割を果たしていたことを明らかにした。

(4) また、両淮・両浙地域において塩政に携わった官僚のうち、李守中という人物に焦点を当て、彼の事蹟を記した碑刻等の諸史料をひもとくことにより、元代両浙の塩政をめぐる具体的状況と地方官による実務的な対応策などの一端を明らかにした。科挙を経ずに胥吏から出世した李守中らにとって、清廉な人格だけでなく、「官」「民」の両方向を意識した行動原理が求められていたことや、当時の地方官界において“理財治民”などの多様な実務能力を重んずる気風があったことを窺い知ることができた。

(5) そして、個々の財務官僚に関する文集や行状などの諸史料を精査することによって、元代両淮・両浙における塩政の展開過程において、1290-1300年代、1330-40年代と

いう二つの緩やかな画期が見られるという仮説を立て、これに検討を加えた。現時点ではまだ論証の不十分な点も多々残されているが、所論はおよそ以下のようにまとめられる。まず、この画期では、尚書省派の勢力が後退し、中書省派が主導権を握る元朝政府によって、漢人官僚らを用いた新たな塩政体制が構築され、両淮・両浙地域の塩課を直接的に徴収することを意図した榷塩法が施行された。しかし、在地の豪民・塩商らの勢力伸長や塩価の騰貴に伴い、やがてこの画期を経て通商法へと回帰することとなった。なお、先述の李守中は、両浙の塩官としてこの画期に塩政の変化を経験した人物であった。(6) さらに、発展的研究として、本研究を元末の諸勢力に関する従来の研究と関連づけることも試みた。すなわち、両淮に興り浙西に拠った張士誠政権や、浙東を拠点とした方国珍政権について、その経済的基盤に塩業や漕運があり、本研究で取り上げた商人集団や官僚の一部が各政権の維持に深く関わっていたという事実の論証に着手した。そのための準備作業として、方国珍に関する伝記資料を題材として取り上げ考察した。彼に関する記録は初め元末にあらわれ、明初に神道碑が立てられたのち、明代から清代・民国時代にかけて様々な人びとの手によって作成された。それら伝記資料群の全体像を見据えつつ、各資料の来歴や性格、資料を構成するプロット・語彙の分析を行い、伝記資料のもつ特質の一端を明らかにした。(7) また、もう一つの発展的研究として、民間信仰の面から元代の地域社会の実像を明らかにすることも試みた。モンゴル政権は、嶽瀆祭祀や儒教保護など中華王朝の伝統的政策を基本線において踏襲し、それに則った国家的な祭祀儀礼を挙行了。その一方で、民衆の間でも祠廟信仰が宋代にひき続いて広がりを見せ、ときに嶽瀆祭祀や観音信仰などと結びつき、際だった靈異を示す祠廟や寺観に民衆の巡礼者が蟻集するという現象が見られたことなどを明らかにした。こうした現象が、両淮・両浙地域における上述の漢人官僚や在地の士人、塩商、豪民といった様々な立場の存在と、どのように関わっていたのかという点を明らかにすることは今後の課題である。(8) 本研究の長期的な目標である、モンゴル政権による江南経済的支配の特質や、元代江南の社会経済と宋代・明清時代との連続性あるいは質的相違といった問題の解明については、現時点では、明確な結論を提出する段階には至っていない。ただ、上述の画期 1330-40 年代に、江南地域において農商諸勢力の伸張が看取される点が、それらの課題を追究するうえで重要な意味を持つであろうことが仄見えてきた。そこで、あらためて江南地域全体を見据えつつ官僚や農商諸勢力の具体的な動向をとらえ、時期的変遷に留意しながら江南における社会経済政策の変遷を分

析することを今後の課題としたい。

5. 主な発表論文等
(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計3件)

矢澤知行, 元代淮浙における塩政の展開, 愛媛大学教育学部紀要, 査読無, 61, 2014, pp.225-233

矢澤知行, 元代の両浙都転運塩使司について, 愛媛大学教育学部紀要, 査読無, 60, 2013, pp.259-268

矢澤知行, 碑刻等史料から見た元代両浙社会 ~ 元代中期の一官僚李守中に関する諸史料を手がかりに ~, 資料学の方法を探る, 査読無, 13, 2013, pp.47-54

〔学会発表〕(計2件)

矢澤知行, 元代淮浙の官僚・豪民・塩商について, 四国東洋学研究者会議(高知大学, 高知県高知市), 2013年12月

矢澤知行, 碑刻等資料から観た元代両浙社会 ~ 元代中期の一官僚李守中に関する諸史料をてがかりに ~, 愛媛大学「資料学」研究会公開講演会(愛媛大学, 愛媛県松山市), 2013年11月

〔図書〕(計3件)

矢澤知行他, 創風社出版, 歴史の資料を読む, 2013, pp.145-163

矢澤知行他, 岩田書院, 巡礼の歴史と現在, 2013, pp.183-203

矢澤知行他, 汲古書院, 外交史料から十~十四世紀を探る, 2013, pp.327-368

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
出願年月日:
国内外の別:

取得状況(計0件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
出願年月日:
取得年月日:
国内外の別:

〔その他〕

ホームページ等
なし

6. 研究組織

(1) 研究代表者

矢澤知行 (YAZAWA, Tomoyuki)

愛媛大学・教育学部・教授

研究者番号：60304664

(2) 研究分担者

なし

(3) 連携研究者

なし